

2019年度 学校評価報告書

学校名	志手原小 学校
-----	---------

1 学校教育目標

自ら学ぶ意欲と方法を身につけた
心豊かな志手原っ子の育成

2 今年度の学校重点目標

・基礎・基本の定着を図り、確かな学力をつける。・学校全体で協働して授業改善を進める。・健やかな体を作るための力を育む教育を進める。・豊かな人間性や社会性を培い、ともに伸びる姿勢を育む。・地域の素材を活かした授業に取り組む。・安全で豊かな教育環境の実現を図る。・家庭や地域と課題を共有し、子どもの健やかな育ちを図る。・適正な予算執行に努める共に、明確な会計管理を徹底する。

3 総合的な自己評価

教員・児童・保護者に実施したアンケートにおいては、教育活動や学校生活全般において昨年度より概ね良好な結果を得ることができた。今年度も、全職員で協力して、子どもたちを見守っていきることができた。基本的な生活習慣についても、家庭との連携の下、ある程度身につけてきている。課題であったあいさつも進んで出来る児童が増えてきた。しかし家庭学習の定着や場に応じた言葉遣いについては、まだ十分とは言えない。課題を明確にし、家庭や地域とも連携しながら、継続的に取り組んでいく必要がある。

4 総合的な学校関係者評価

今年度も職員や保護者、児童へのアンケート等を実施し、計画的に自己評価がなされている。アンケート結果から、学校が楽しいと答えている児童の割合が高く、適切な教育活動がおこなわれている。
全職員で協力して、子どもたちにとって、より良い教育をしようと努力する姿が見られた。引き続き、教職員全体での情報共有に努めていってほしい。
小規模校ならではの学校行事の工夫、改善を図ってほしい。

5 評価結果

自己評価。			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	学校関係者評価委員会の意見	
教育目標 ・教育方針	・教育目標や指導の重点目標にもとづき、教育活動に取り組んでいるか。	本年度も、様々な場面で地域の方々の協力を得ながら、教育目標の達成に向けて努力した。アンケートから、児童は学校での学習や活動を楽しみに生活していることがわかる。本校児童のよさである素直で真面目なところを生かしながら、さらに自主性や意欲を引き出していき取り組みを通して、子どもたちの学びに向かう力を伸ばしていきたい。	学校と保護者、地域との連携ができています。今後もこの関係を継続していくことが必要である。元気な志手原っ子の育成をめざしてほしい。 幼小の連携を強めていってほしい。	
	・学校教育目標に沿って、学級経営目標や教科目標を適切に設定しているか。 ・目指す児童像の実現に向けて、学習面・生活面で具体的に指導しているか。	学校教育目標や学年目標など指導の重点項目が、校内や教室に掲示されるとともに、学校便りや学年便りを通じて発信され、意識した指導がなされている。子どもたちもめあてをもって、生活、学習しようとしている。小規模校のよさを生かし、学校全体で子どもたちの成長を見守ることができている。今後、自分らしさを積極的に出しながら、自ら工夫し、主体的に学習や行事に取り組む力をさらに育てることが必要である。	進んで学ぶ姿勢や学びの中で自ら疑問を持つ姿勢を大切にできた。今後は授業の中で、自分の考えや感想を話す機会を増やしていきたい。友だちとの交流の中で、疑問をぶつけ合ったり、共感しあったりする活動を通して、自分を表現する楽しさや友だちと学習する楽しさを感じる授業づくりに努力していく。また、家庭との連携のもと、家庭でも進んで学習する習慣や、健康的な生活習慣を身につける取り組みを進めていく。	学校で取り組んでいること、家庭にも協力してほしいことなど互いに情報の伝達をする機会を増やしていってほしい。家庭でも進んで学習できるように、自主学習の仕方を、児童・保護者の双方に伝えて欲しい。(家庭学習の手引きの活用)
教育課程	・年間計画にもとづき、各行事は、適切に実施でき、また、取り組み時間は適切であるか。 ・授業時数は、適切に確保できているか。また、各教科の時間数はバランスよく適切に確保できているか。	子どもが活躍するための行事、授業時数確保、特に児童数減の観点で行事の精選・工夫をした。行事の内容や実施時期は適切である。子どもアンケートでは、ほぼ100%の児童が、「行事でがんばった。」と答えており、子どもたちが学校行事を楽しみにし、精一杯取り組み、達成感を感じていることがわかる。しかし地域・保護者からは、さらに魅力的な行事になるように工夫してほしいという意見もあった。来年度から授業時数が増えることもあり、さらに行事の内容・方法・時期について改善が必要である。	児童数の減少に伴い、今年度は、一緒に社会見学に行ったり、共に行事に取り組んだりすることで、互いに学び合い、高め合えるような工夫・改善をしてきた。さらに来年度は、音楽、図工、体育、家庭科の各教科で、それぞれ1・2年、3・4年、5・6年の合同授業を実施する。また子どもたちが、達成感とともに意欲的に取り組んでいけるように、小規模校のよさを生かした魅力的な行事作りについて、更なる工夫改善に努める。小規模校ならではの縦割り活動の充実を図り、子どもが主役として活躍できる行事をしていきたい。学校行事を、より子どもたちにとって魅力的なものにしてほしいという保護者の願いを大切にしながら、今後も内容を工夫していく。	小規模校のよさを生かした魅力的な行事づくりの取り組みをさらに進めていってほしい。 オープンスクールに参加する地域の人が少ない。
	・新指導要領の趣旨を踏まえ、基礎的・基本的な内容を押さえて指導しているか。	授業の内容について、児童からは良好な評価を得られている。教師の評価、保護者の評価は高い数値であるとは言えない。兵庫型新学習システムによる確実な授業計画の推進、教科担任制による授業づくりについては一定の成果があがっている。 昨年度より教科化された道徳の指導や、来年の英語の教科化に向けての準備は、計画的に行うことができている。情報活用能力の育成については、タブレットや大型テレビの使用度も増え、少しずつ成果を上げているが積極的な活用には至っていない。	各教科における授業研究を推進していくことはもちろん、新指導要領の趣旨を踏まえ、校内研究と教育課程を組織化して取り組んでいく。主体的に、意欲的に学ぶ子を目指して、子ども同士の交流の場の充実を図りたい。その際、情報機器を効果的に活用しながら、表現力の育成にも努めていきたい。 教職員自身のコンテンツやアプリ等の活用についての研修を深めていく。 どの教科で、どの教材で、どの場面で使用すると効果的なのかを探っていく。	今後も基礎基本の学力を着実につけてほしい。英語や算数を中心とした教科で、小中連携をし、先を見通した基礎・基本の力をつけてほしい。 個人で学習を進めていくだけでなく、友だち同士で勉強を教え合う学習活動も大切にしたい。
	・命と人権を大切に教育を充実し、思いやりの心を育むことができたか。 ・友だちの良さや人とつながることの良さを指導しているか。	「なかよし集会」や「やさしさの花」の取り組みを通して、友だちへの優しい言葉がけや行動をしようとする態度が、見られるようになってきた。「なかよし集会」では、恥ずかしがらずに、感じたことやテーマについての感想を述べる児童が増えてきている。自信を持って自分の思いを述べるができる「自己肯定感」が、少しずつだが、育まれてきている。	「なかよし集会」が、自分の身の周りの問題や矛盾に気づき、解決していこうとするための発信となるように、テーマが同じにならうように吟味する。また、すべての児童が、自分の良いところを自覚し、さらに伸ばしていこうとする自己肯定感が持てるように、日々の授業、学校すべての活動の中で、一人ひとりが活躍できる場を持たせたい。	子どもからの小さなサインを見逃さずに、個々の児童を、教職員全体で丁寧に見ていってほしい。 「自己肯定感」を持った児童を育てていってほしい。
生徒指導	・気持ちの良い挨拶をしたり、人を思いやった場に応じた言葉遣いができたりするよう指導しているか。	児童は、学校のきまりや、地域でのきまりを良く守って生活している。あいさつに関しては、全校集会であいさつの意義を話したり、来客時には、予め呼びかけたりすることで、自分から進んで挨拶する児童が増えた。言葉遣いに関しては、友だち同士の中では悪い面も見られたりするが、先生や地域の方々に話す時には、丁寧な言葉づかいで話している。高学年の場に応じた適切な言葉遣いが、低・中学年の児童の手本になっている。	引き続き、自分から挨拶することの良さや必要性を絶えず意識させ、教師も挨拶に対する意識を改め、継続して声かけをしていく。また高学年が率先して挨拶を広めていく取り組みを児童会が中心となって考えていく場の設定を工夫する。 校内だけでなく、家庭や地域でも時と場合に応じて気持ち良く挨拶できるように、保護者の理解や協力を得ながら、連携して挨拶や言葉遣いの取組を進める。	地域全体で気持ちの良いあいさつについて取り組んでいきたい。気持ちの良いあいさつができるように、あいさつをする意味を、継続して子どもたちと考えてほしい。
	・食育を通しての自分の生活を見つめ直し、家庭での実践につなげていく指導を進めていくことができたか。 ・身近な「歯」「口」の健康に取り組み、児童に生活を改善しようとする態度が育ったか。	給食後の歯みがきを続けている。歯と口の健康習慣には、学年を決め歯磨き指導を行っている。歯磨きカードで、振り返る機会を作った。今年度は、夏休み、冬休みを含め3回実施した。栄養教諭を中心に、給食の時間等を利用し、食育指導を実施している。身体測定等の時間に養護教諭が学年の発達段階に応じた保健指導を実施した。これにより個々の児童の健康に対する意識が高まった。	基本的な生活習慣(朝ごはんを食べる、食事を3回とる、好き嫌いしない、バランスの良い食事等)について、家庭との連携のもとに推進する。 学校からの通信などで、保護者にも指導内容等を伝え、家庭での協力をお願いしていく。	引き続き現在の取り組みを継続してほしい。 自分の健康に関心を持つとともに、自分や友達の心と身体を大切にしていこうとする気持ちや態度を育んでほしい。

	<p>・「学校いじめ防止基本方針」に基づき、児童一人ひとりの悩みや不安に細かく対応する教育相談活動を行っているか。</p>	<p>子どもの人数が少ないこともあり、教師は学年を問わず、日々子どもたちの様子や課題、支援の仕方を共通理解し、子どもたち一人ひとりに目を向け、きめ細やかな指導をする体制づくりをし、日々努力している。本年度は、交流授業が多かったこともあり、より児童の様子を共通理解することができた。保護者も参観日などの行事を通じてそのように感じてくださっている方が多い。しかし、子どもたちのことで、どこまでを学校に相談すれば良いのか迷われている保護者もある。</p>	<p>子ども一人一人との心のふれあいを大切にした指導を行い、教師との信頼関係を強くすることで、相談しやすい雰囲気を作っていく。またいじめアンケート等の実施により、子どもたちの状態や心の様子を探り、困った児童を見逃さずに、声をかけ、教職員全体で見守っていく生活指導の体制を継続する。また保護者がいつでも相談できるように、普段から連携を密にして、何でも相談できる良い関係を構築していきたい。今後も引き続き、学校、家庭、地域が連携して、子どもたちの成長を見守って行けるような体制づくりを推進していく。</p>	<p>引き続き、児童一人ひとりの悩みや不安に細かく対応できるような環境づくり、雰囲気づくりを更に、工夫して行ってほしい。教員とは別に専門の人の常駐ができるとう良い。</p>
学校・家庭・地域との連携	<p>・学校の取り組みを、積極的に公表し、地域・保護者と協働した取り組みを行っているか。</p>	<p>学校便りをホームページに掲載している。また、来校者にも様子がわかるように、掲示板を利用して日常の様子を掲示している。 きょうだいつくり推進委員会、PTA 全体役員会等を通じて、区長会、老人会、スポーツ 21 など、地域団体への情報発信に努め、連携を深めた。</p>	<p>さらなるホームページの活用を図り、学校の情報を適切に発信していく。 運動会、音楽会、オープンスクール、志手原フェスティバル、わいわいカーニバル等学校行事の工夫改善を図り、PTA 行事との連携を深め、学校評議員、民生児童委員、学校応援者を通して地域と共同した取り組みとする。</p>	<p>今年度から導入したメール配信システムについても積極的に活用して行ってほしい。</p>
	<p>・学校支援ボランティアや地域の人材を活用し、児童が多くの人とふれあう機会を創出しているか。</p>	<p>必要な活動では、ボランティアの方々の協力を得ている。 今年度も感謝のつどいを継続し、子どもたちとボランティアの方々との交流の場を持った。子どもたちが、地域の方々に見守られているということあらためて認識し、感謝する場になった。</p>	<p>いろいろな場で、子どもたちにボランティアの方々にお世話になっていることを伝えていく。 交通安全教室のお手伝いなど、協力を得たい活動は、前年度から計画してお願ひしていく。</p>	<p>地域の人材を積極的に活用して行ってほしい。また同時に学校支援ボランティアの人材の確保について協力していきたい。</p>
学習指導	<p>・児童一人ひとりの到達段階を把握できたか。 ・基礎・基本を定着させるため、朝学習や家庭学習などに反復練習等を取り入れているか。 ・「家庭学習のてびき」を活用し、家庭と連携して進んで学ぶ習慣作りを図っているか。</p>	<p>「ひょうごがんばりタイム」(木曜日放課後)や朝学習の「志手原計算チャレンジ」(火・水・木・金曜日)の取組は基礎・基本の学力を定着させる場としての機会となっている。 教師が児童一人ひとりの実態を見取り、どの部分が苦手なのか、どこにつまずきがあるのかを把握し、個別の支援も丁寧に行っている。 「家庭学習の手引き」については学校全体の取組として、効果的に活用できていない実態がある。</p>	<p>「ひょうごがんばりタイム」や「朝学習」の取組は「朝読書」を含め、継続的に取り組んでいく。ただ、繰り返しのプリント学習ではなく、児童に達成感・充実感を持たせる工夫を行っていく。 「家庭学習の手引き」については学校の組織的取り組みとするため、教師自身がどのように活用すれば効果的なのかを年度当初に共通理解し、年間を通した取り組みとしていく。また、同時に児童にも意識させ、保護者にも総会や学級集会等で啓発していくようにする。</p>	<p>個々の児童の個性や能力を再確認したり、日頃の学習の成果の有無を検証したりする取り組みを家庭と連携していき、学力の向上につなげてほしい。 朝の学習を継続し、基礎基本の力をつけてほしい。</p>
	<p>・兵庫型教科担任制や専科制、新学習システムなどを効果的に活用しているか。 ・地域の人材や素材を活かした授業に取り組んでいるか。</p>	<p>兵庫型教科担任制、専科制、新学習システムの効果的活用により、複数の教師で子どもたちの様子、学習を見取っていくという体制づくりができています。また、個別に応じた支援も各担任を中心にていねいに行っている。 「開かれた教育課程」にもつながる地域の豊かな人材や素材をどの学年のどのカリキュラムに活用していくのかには課題が残る。 また、家庭での学習、自主的な学習については、児童・保護者とも課題がある。</p>	<p>「家庭学習の手引き」については学校の組織的取り組みとするため、教師自身がどのように活用すれば効果的なのかを年度当初に共通理解し、年間を通した取り組みとしていく。また、同時に児童にも意識させ、保護者にも総会や学級集会等で啓発していくようにする。 宿題を単なるプリントやドリルにするだけでなく、学び方(復習→予習→応用、調べ学習の方法等)を学年に応じて取り入れていく。 タブレットや大型テレビ等の情報機器を効果的に各教科の授業の中に取り入れていく。</p>	<p>新学習システム等がうまく活用できている。より多くの先生が子どもたちに関わっていることが良いことだと思う。 情報機器を効果的に活用し、子どもたちの興味関心に即した学習の充実を図ってほしい。 地域人材の発掘をしていきたい。</p>

6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
7月	中間職員自己評価アンケート実施
8～9月	中間職員自己評価アンケート分析・検討
12～1月	職員自己評価アンケート実施
1月	児童、保護者アンケート実施
1～2月	児童、保護者アンケート結果分析・検討
1～2月	職員自己評価アンケート結果の分析・検討
3月	3学期末職員自己評価アンケート結果公表

7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	行事等	内 容
6月 1日	運動会	運動会参観
6月20日	第1回学校関係者評価委員会	学校教育方針、年間計画、学校評価手順について説明
10月 4日	第2回学校関係者評価委員会 オープンスクール参観	オープンスクール参観・ふれあい大会参加 意見交流
11月 2日	音楽会	音楽会参観 意見交流
1月31日	オープンスクール参観	オープンスクール参観及び給食試食会
3月 3日	第3回学校関係者評価委員会	
3月 24日	卒業式	
第3回学校関係者評価委員会、卒業式については新型コロナウイルス拡大防止のため中止		

学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
4月	PTA 総会・ホームページ	学校評価結果を踏まえて、今年度の目標や指導方針を説明	
適宜	学校便り・学校掲示板	学校評価に基づいた指導について、適宜周知するとともに、自己評価結果及び改善策について保護者に配布(3月)。	
3月	PTA全体役員会・ホームページ	自己評価及び関係者評価を公表	○